

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		柔道整復実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	第2校舎302教室
担 当 教 員		伊黒 浩二	実務経験と その関連資格				

《授業科目における学習内容》

臨床でよく目にする上肢の脱臼の発生機序、症状、施術方法、経過と予後について学習し各損傷について、柔道整復師の
施術範囲の鑑別や適応の判断や応急処置について理解を深め、各損傷に対する、施術適応の判断ができ、適応となる損傷
に対して適切な施術を行えるようになることを目標とする。

《成績評価の方法と基準》

期末試験評価:100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集)
柔道整復学実技編(全国柔道整復学校協会編集)
PC, プロジェクター

【参考図書】標準整形外科学(改訂第12版:医学書院)

《授業外における学習方法》

講義の内容確認の為、次回講義開始後、10分間を前回の講義復習時間とし、教科書、配布プリントの内容を中心に復習し、
各項目ごとに小テストを実施。
学習したことを定着させる為、必ず毎回の講義範囲を復習すること。

《履修に当たっての留意点》

1年生の前期で総論が終了し、前期から柔道整復学各論となります。解剖学の骨筋の復習や機能解剖を学習し、脱臼とは何か、軟部組織
とは何かなど構造的に学び、外傷である脱臼、軟部組織損傷とはなにかを理論的に学習していき、柔道整復理論は暗記ではなく理
屈を考え学習していきましょう。

授業の 方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられ る	教科書(柔道整 復学理論編・実 技編)、配布プリ ント	前期履修内容の確認と 復習をすること
		各コマに おける 授業予定	2-5. 前腕部の損傷 A・機能解剖		
第2回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられ る	教科書(柔道整 復学理論編・実 技編)、配布プリ ント	講義の復習と次回講義 の予習をしておくこと
		各コマに おける 授業予定	C・前腕部の軟部組織損傷		
第3回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられ る	教科書(柔道整 復学理論編・実 技編)、配布プリ ント	講義の復習と次回講義 の予習をしておくこと
		各コマに おける 授業予定	3-2. 股関節部の損傷 A・機能解剖		
第4回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられ る	教科書(柔道整 復学理論編・実 技編)、配布プリ ント	講義の復習と次回講義 の予習をしておくこと
		各コマに おける 授業予定	C・股関節脱臼		
第5回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられ る	教科書(柔道整 復学理論編・実 技編)、配布プリ ント	講義の復習と次回講義 の予習をしておくこと
		各コマに おける 授業予定	D・股関節の軟部組織損傷		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	E・股関節部の軟部組織損傷①		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	3-3. 大腿部の損傷 A・機能解剖		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	3-4. 膝関節部の損傷 A・機能解剖 D・膝関節脱臼		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	G・膝関節の軟部組織損傷 H・注意すべき疾患		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	3-5. 下腿部の損傷 C・下腿部の軟部組織損傷		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	3-6. 足関節部の損傷 A・機能解剖 D・足関節部の脱臼		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	E・足関節部の軟部組織損傷 F・注意すべき疾患 3-7. 足・指部の損傷 A・機能解剖		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	E・足根部の脱臼と軟部組織損傷 F・足指節関節・指節間関節脱臼		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	教科書と配布資料を用いて、後期講義の総復習をしておく
		各コマにおける授業予定	後期講義の復習①		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	履修内容の国家試験に準じた問題が解けるようになる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	まとめで理解できていない部分について、教科書等を参照に確認する
		各コマにおける授業予定	まとめ		